

令和元年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	教員海外研究支援経費
研究者氏名・所属・職名	佐藤 淳一・旭川校・准教授
研究題目	エリザ・ホール・コレクションの実態と復刻に関する研究
主たる滞在地名及び属する国名	アメリカ合衆国(ニューヨーク、ボストン)
滞在期間	令和元年9月15日～令和元年9月18日
研究内容及び成果の概要	
<p>1853年にパリで生まれたエリザ・ホール(1853-1924)は、父親の仕事の関係でボストンに移り住んだが、その後、夫であり医者でもあるリチャード・ホールの勧めにより、腸チフスによる熱で低下してしまった聴力を維持するためにサクソフォンを習い始めた。当時のサクソフォンはアドルフ・サククスによって1846年に発明されたばかりの楽器で、まだほとんど楽譜がなかったが、裕福な家系に生まれたエリザ・ホールはボストン交響楽団のオーボエ奏者であったG. ロンジーを通じてC. ドビュッシー、V. ダンディ、F. シュミットら当時の最先端の作曲家たちに22曲もの委嘱をした。それらの楽譜は一部しか出版に至っておらず、原譜はボストンにあるニュー・イングランド音楽院にエリザ・ホール・コレクションとして所蔵されている。ほぼ全ての楽曲はエリザ・ホール自身によって初演されているが、当時はまだ録音技術もなく、未出版の楽譜の多くがどのような楽曲であるか不明になっている。今回の研究の目的はエリザ・ホール・コレクションの閲覧と原譜をスキャニングしてデータとして持ち帰ることを目的とした。</p> <p>令和元年9月16日～令和元年9月17日にニュー・イングランド音楽院に訪問した。図書館のライブラリアンの同席のもとエリザ・ホール・コレクションを閲覧し、またスキャニングを行なった。今回新たに判明したのは、コレクションの中でオーケストラ版から既にピアノリダクションされた作品もあれば、オーケストラのスコアしか存在せず、パート譜が所蔵されていない作品もある事であった。ライブラリアンに質問してもパート譜の存在は分からないとのことだったので、紛失してしまった可能性が高い。本研究は実態を調査すると同時に復刻も目指しており、まずはスキャニングしたデータを元にパート譜を復元し、最終的には音楽作品は演奏して価値があるものなので、エリザ・ホール・コレクションの演奏的復刻を大きな目的として次の研究に繋げたい。</p>	
成果の公表の状況	
【著書】なし	
【学術論文】なし	
教育現場で活用可能な分野等	
音楽分野において扱われることの多いドビュッシーの教材研究としての活用。	
配布又はダウンロード可能な資料	なし
問い合わせ先	代表者：佐藤 淳一 電話：0166-59-1339 FAX： mail：sato.junichi@a.hokkyodai.ac.jp